

愛され親しまれている犬

モラルとマナーが問われています



公園などに掲げてある看板

昔は番犬、今はペットとして、多くの家庭で飼われている犬。その忠実な性格から、人々に愛され親しまれています。しかし、人間社会の中に犬が深くかかわっていることから、飼い主の義務と責任が問われるようになってきました。こうした点について、保健予防課と前橋地区獣医師会長の桑原保夫さんに話をお聞きして、記事をまとめました（担当は市民編集委員・大崎、岡村）。

問い合わせは広報広聴課 890 6642へ。

必ずしましょう

登録と注射

犬を飼う人には「狂犬病予防法（昭和二十五年制定）」によって、犬の登録と狂犬病予防注射を受けさせることが義務付けられています。

わが国では、昭和三十一年以

降、狂犬病の発症事例はありません。しかし、外国船が頻繁に出入りしている現在、動物検疫をかいぐぐって、感染した犬が侵入してしまうという心配もあります。

狂犬病はとても恐ろしい病気です。犬はもちろん、感染した人も発症すれば致死率は100%。

また、かまれるだけでなく、狂犬病に感染した犬が地面に垂らした唾液に傷口が触れ、感染した人もいるそうです。さらに、コウモリやキツネから感染することもあります。

このように狂犬病はとても恐ろしい病気。犬の老若や大小にかかわらず、毎年一回の予防注射を必ず受けさせましょう。これを怠った人には二十万円の罰金が科せられます。人と犬が共存するための最低限のルールです。必ず守りましょう。

散歩のふんは

持ち帰って

市に寄せられている犬に関する苦情の中で、最も多いのがふんの問題です。衛生上はもちろんのこと、まちの美観を守るためにも、飼い主がきちんと片付けなくてはなりません。

公園や道路など、公共の場をきれいに使うことは当然のことですが、モラルのない飼い主によって、家の前にふんを置き去りにされ、いやな思いをしている人たちもたくさんいます。子どもたちの手本となるべき大人たちが、こうしたマナーを守れないとすれば、とても恥ずかしいこと。公園などにこれ呼び掛ける看板も設置されていますが、飼い主は責任をきちんと果たさなくてはなりません。

飼い主が

リーダーに

本来、犬は群れの中で暮らす動物です。リーダーに従って生活することを求めています。そのため、飼い主がしっかりとリーダーになって、しつけることが大切。この自覚を持たずに、犬を甘やかして育ててしまつと、アルファシンドローム（問題犬症候群）といわれる、わがままな犬になって、トラブルを起こしてしまうかもしれません。

特に、犬には優れた学習能力があるので、飼われている家族と自分との序列を理解させることが不可欠です。もし、犬のしつけで分からないことや困ることがあったら、獣医師や訓練士など、専門家に相談してみましょう。